

## 審査結果概要書

平成 23 年 2 月 14 日

審査機関名 シー・アイ・ジャパン株式会社

### 1. 排出削減事業の概要

排出削減事業名	製糖工場におけるボイラの更新（高効率化）
排出削減事業者名	鳳冰糖株式会社
排出削減共同実施事業者名	テス・エンジニアリング株式会社
その他関連事業者名	西部ガス株式会社
事業実施場所	鳳冰糖株式会社 本社工場 （福岡県北九州市門司区下二十町 1 2 番 2 号）
事業の概要	本事業は、A 重油焚ボイラを、都市ガス焚ボイラへ設備更新し、高効率化することにより、二酸化炭素排出量の削減を図るものである。
排出削減量の計画	2010 年度： 437 tCO <sub>2</sub> /年 2011-2012 年度： 749 tCO <sub>2</sub> /年 （事業実施機関合計 1,935 tCO <sub>2</sub> ）
国内クレジット 認証期間	事業開始日 2010 年 9 月 1 日 終了予定日 2013 年 3 月 31 日
排出削減方法論	方法論番号 001 ボイラーの更新

### 2. 審査結果

本事業は、排出削減事業の要件に適合している。

### 3. 実施した審査手続きの概要

審査手続きにより、以下の排出削減事業の認証の要件の妥当性を確認している。

要件	審査手続き
日本国内で実施されること	<p>事業計画が日本国内で実施されていることを、2011年1月25日に事業サイトを訪問して確認した。</p> <p>排出削減事業実施場所：鳳冰糖株式会社 （福岡県北九州市門司区下二十町12番2号）</p>
追加性を有すること	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 本事業は、法的義務等の順守のために計画されたものではなく、CO2排出量の削減を目的として実施されたことを、削減事業実施者への質問等により確認した。</li> <li>2) 本事業を実施せず、設備更新を行わない場合、既存設備（A重油焚ボイラ）を継続して利用することが可能であったことを質問、関連資料の閲覧、及び事業サイト訪問時での既存設備の導入実施時期の確認により確認している。</li> <li>3) 排出削減事業の投資回収年数については、入手した根拠資料、質問および検算により投資回収不能であることを確認している。投資回収年数計算の根拠データについては、関連証憑と突合することにより正確性を確認している。また、投資回収年数については設備投資額から補助金を差し引いた値をもとに算出していることを確認している。</li> <li>4) 当事業所の工場立地環境は当初より様変わりし、住宅や商店などが多く存在する中に位置している。組織では、その土地で業を営むためには、地域住民への危険物貯蔵リスクや、排ガス、騒音などの地域環境への配慮を更に進める必要があることに加えて、低炭素社会への貢献というCSR上の組織の意図が、国内クレジット制度の京都議定書目標達成という意義とマッチし、設備投資については回収不能であるが敢えて投資を行い申請に至ったことを確認している。以上の通り、本事業は国内クレジット制度への参加を意図して実施されたものであり、追加性があると判断できる。</li> </ol>
自主行動計画に参加していない者により行われること	<p>自主行動計画への参加の有無について、訪問時の事業者への質問、その他関係者への質問により自主行動計画に参加している事業者でない事を確認した。</p>

排出削減方法論に基づいて実施されること

- 1) 本排出削減事業は、承認排出削減方法論 001 に基づき排出削減量を計算しており、該当する適用条件を満たしていることを確認した。  
適用条件 1 については、既存ボイラよりも高効率のボイラに更新していることを現地確認及び関係者への質問により確認している。  
適用条件 2 については、本事業により都市ガス焚ボイラへの更新を行わなかった場合、既存の A 重油焚ボイラを継続的に利用できることを関連資料及び関係者への質問により確認している。  
適用条件 3 については、都市ガス焚ボイラにより生産した蒸気はすべて事業所内で使用しており、他者への供給はないことを確認している。
- 2) その他、バウンダリーの設定、ベースラインの設定、リーケージの特定、排出削減量、モニタリングの方法が適切であることについて、それぞれ質問と関連証憑により確認している。
- 3) ベースライン排出量の算定に係る既存設備の最大利用期間について、K-1600LEについては法定耐用年数の 2 倍を超えていないことを確認している。KMH-4については、法定耐用年数の 2 倍を超えているが、ボイラー性能検査結果報告書において、異常を認めない旨の結果内容を確認し、引き続き使用できる状態にあったことを確認している。

4. 特記事項

なし

以上